

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 行動システム専攻 健康・スポーツ科学コース

① 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>行動システム専攻 健康・スポーツ科学コースでは、次の教育目標を掲げる。</p> <ul style="list-style-type: none">・人間の身体的・精神的活動という人間行動を研究対象とし、健康・スポーツ科学（健康科学、体育科学、身体運動科学、スポーツ科学）で培われた研究方法を通して、人間行動の仕組みを学際的に解明する研究者ならびに高度専門職業人を養成する。・修士課程では、人間行動に関する生理学、心理学および社会学等に関する専門的な知識を獲得し、健康・スポーツ科学領域における課題の解決を図るための技能を修得する。・博士後期課程では、修士課程で培った専門的な知識および技能・研究方法を発展させながら、独創的かつ発展性の高い研究を実施し、健康・スポーツ科学領域での研究の発展に寄与することができる研究者ならびに高度専門職業人としての能力を育成する。 <p>本専攻・コースの教育目標を達成し、所定の課程修了要件を満たした者に、履修した科目および研究テーマに応じて、修士（人間環境学）、修士（心理学）、または修士（教育学）、博士（人間環境学）、博士（心理学）、または博士（教育学）の学位を授与する。</p>
参照基準	<p>Subject Benchmark Statement (UK)</p> <ol style="list-style-type: none">1) Events, Hospitality, Leisure, Sport and Tourism (2016)2) Health Studies (2016)
学修目標	<p>修士課程</p> <p>A. 主体性・協働</p> <p>A-1.（主体性）人間行動をめぐる研究課題に、自主的に取り組むことができる。</p> <p>A-2.（協働）他者と協働して、研究課題に取り組むことができる。</p> <p>B. 知識・理解</p> <p>B-1.（知識・理解）健康・スポーツ科学および関連する他学問領域での専門的な知識を有している。</p> <p>C. 技能</p> <p>C-1.（適用・分析）調査・実験を遂行し、収集した研究データを解析することができる。</p>

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

C-2. (評価・創造) 研究結果を考察し、明晰かつ説得力のある結論を導き出すことができる。

D. 実践

D-1. (実践) 政府・地方公共団体、民間企業、教育機関等において、あるいは、これらとの連携により、健康・スポーツにかかる諸課題の解決を図ることができる。

博士後期課程

A. 主体性・協働

A-1. (主体性) 自らの研究課題について、独創的な仮説を構築することができる。

A-2. (協働) 指導的な立場で、研究課題に取り組むことができる。

B. 知識・理解

B-1. (知識・理解) 健康・スポーツ科学および関連する他学問領域での先端的な知識を有している。

C. 技能

C-1. (適用・分析) 自らの研究課題について、自立して調査・実験を完遂し、収集した研究データを高度な技法を駆使して解析することができる。

C-2. (評価・創造) 自らの研究課題について、得られた研究結果を多角的に考察し、明晰かつ説得力のある、独創的な結論を導き出すことができる。

D. 実践

D-1. (実践) 高等教育機関において、自立して研究・教育に携わることができる。

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

② 新カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

【コースワーク】

・修士課程

メイン・ディシプリンである健康・スポーツ科学を包括的に学修する科目（「健康・スポーツ科学特論」、「健康・スポーツ科学演習」）に加えて、人文科学、社会科学、自然科学にまたがるサブ・ディシプリン（運動・スポーツ心理学系、スポーツ文化・社会学系、運動生理・生化学系、運動疫学・処方系）にかかる多様な科目を開講している。また、他専攻・コースの関連専門科目（心理学、社会学、教育学、環境科学など）、および、学府共通科目である「人間環境学」「学際研究論」「学際連携研究法」も履修でき、学生は、学際的な視野から健康・体育・身体運動・スポーツ行動をめぐる課題の解決に取り組むための知識と理解を深め、実践力を身につけることができる。

2年次には、「特別研究」において、様々な領域での学修を統合させ、修士論文の作成に向かう。

・博士後期課程

サブ・ディシプリン（運動・スポーツ心理学系、スポーツ文化・社会学系、運動生理・生化学系、運動疫学・処方系）にかかる「講究」を一つないしは複数受講し、専門性を深化させる。

2年次以降は、「博士論文指導演習」において、博士論文の作成に取り組む。

【研究指導体制】

・修士課程

2名の主副指導教員が中心となるが、健康・スポーツ科学コース修士課程担当教員全員が、適宜、研究指導を行う。

・博士後期課程

3名の主副指導教員が中心となるが、健康・スポーツ科学コース博士後期課程担当教員全員が、適宜、研究指導を行う。

【学位論文審査体制】

・修士課程

修士論文審査基準として、6つの評価項目（1. 学位申請者が自ら行った研究を主たる内容とすること、2. 学術的・社会的に一定の貢献ができる課題を含み、新規性、独創性、有用性のいずれかが示されていること、3. 先行研究を適切に踏まえ、研究の位置づけが明確にされていること、4. 研究方法が明確かつ適切であり、具体的に記述されていること、5. 内容の記述や展開が論理的であり、説得力があること、6. 文献の引用も含め研究倫理の問題に対して十分に留意がなされ、学術論文として体裁が整っていること）を設定しており、これらすべてを満たすものを、修士論文として認めることとしている。

修士論文を提出するためには、コース担当教員が出席する中間発表会で研究内容あるいは計画を報告することが必要である。論文提出後には、修士論文発表会で論文の内容を報告し、コース担当教員や在学生等と質疑応答を行う。2名の主副指導教員は、修士論文を100点満点で評価し、

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

発表会での質疑応答の内容をふまえて、合否を判定する。

・ 博士後期課程

博士論文審査基準として、6つの評価項目（1. 学位申請者が自ら行った研究を主たる内容とすること、2. 学術的・社会的に貢献ができる課題を含み、新規性、独創性、有用性が示されていること、3. 先行研究を適切に踏まえ、研究の位置づけが明確にされていること、4. 研究方法が明確かつ適切であり、具体的に記述されていること、5. 内容の記述や展開が論理的であり、説得力があること、6. 文献の引用も含め研究倫理の問題に対して十分に留意がなされ、学術論文として体裁が整っていること）を設定しており、これらすべてを満たすものを、博士論文として認めることとしている。

博士論文を提出するためには、1. コース担当教員が出席する中間発表会で研究内容および計画を報告すること、2. 査読のある学術雑誌に第一著者として2編以上の論文を公表していること、が必要である。論文提出に先立ち、コース内発表および予備調査会を行い、専攻・コース担当教員により、提出の可否が審議される。提出された論文は、1名の主査、2名以上の副査（専攻外者1名以上）で構成される論文調査会で審査される。専攻外副査については、学外の専門家を積極的に登用する。論文調査の過程で、論文公聴会を開催し、口頭試問を行う。論文調査および口頭試問における評価に基づき、論文調査会で合否を決定する。論文調査会の報告を受け、専攻の教員全員で構成される論文審査会が、合否の審査を行う。専攻での合否結果は、教授会に報告され、学府における最終的な審査（合否判定）が行われる。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

アセスメント・プランに基づいて行われた学修目標達成度評価の結果を受け、また、学生による授業評価アンケートの結果を踏まえて、開講科目の種類、配置、教授方法等の改善の必要性を、健康・スポーツ科学コースカリキュラム評価・改善委員会において検討する。

《アセスメント・プラン》

学位論文（修士論文、博士論文）の審査と並行して、学修目標の達成度を、主副指導教員が評価する。

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

③ 新アドミッション・ポリシー

<p>求める学生像</p>	<p>次に掲げる知識や能力、態度・資質等を備えた学生を求める。</p> <p>修士課程</p> <p>人間の健康行動やスポーツ・身体運動に深い関心を有し、健康科学、体育科学、身体運動科学、スポーツ科学で培われた研究方法を通して人間の身体や心のしくみ・はたらきを解明する高度専門職業人を志向する学生を求めている。特に、(1) 人間の健康行動やスポーツ・身体運動をめぐる包括的な問題への関心と幅広い基礎知識、(2) 国内外における学術的知見を収集するために十分な、語学力とコミュニケーション能力、(3) 自ら課題を発見しようとする探究心と、その解決を図るための想像力、(4) アカデミアと現場の垣根を乗り越えて問題解決に立ち向かう強い意志など、各種の諸問題に対して、他者と協力しながら積極的に関与していこうとする態度や資質を有する学生を積極的に評価し、受け入れる。</p> <p>博士後期課程</p> <p>人間の健康行動やスポーツ・身体運動に深い関心を有し、健康科学、体育科学、身体運動科学、スポーツ科学で培われた研究方法を通して人間の身体や心のしくみ・はたらきを解明する研究者を志向する学生を求めている。特に、修士課程入学希望者に求める上記の態度や資質に加え、(5) 専門分野の理論や方法論、研究成果に関する幅広い知識、(6) 専門に隣接する分野についての学際的な基礎知識、(7) 研究テーマに関連する知識や収集したデータを結びつけて文章を作成し、成果を発信できる語学力を含む学術的なスキルに基づき、自主的に研究活動を推進する態度や資質を有する学生を積極的に評価し、受け入れる。</p> <p>学部教育との接続</p> <p>学部教育において、健康科学、体育科学、身体運動科学、スポーツ科学を専門的に学んだ者だけでなく、他分野の学問を修めた者であっても、入学希望者に求める上記の態度や資質を備えている者を積極的に受け入れる。そして、学部教育で修得した知識を学際的な見地から活かし、課題を多角的に捉え、創造的に考えることで、健康科学、体育科学、身体運動科学、スポーツ科学における諸問題への包括的なアプローチにつなげていくことを目指す。</p>
<p>入学者選抜方法との関係</p>	<p>修士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜を実施する。 ・一般選抜および外国人留学生特別選抜では、成績証明書や研究計画書等の提出書類に加え、外国語試験、専門科目試験（共通科目・選択科目）、口述試験を課す。「求める学生像」の(1)に関わる資質や態度を見るため、専門科目試験に加え口述試験を、(2)に関わる資質や態度を見るため、外国語試験に加え口述試験を、(3)(4)に関わる資質を見るため、口述試験を実施する。 ・社会人特別選抜（専門共通科目試験を免除し、提出書類を重視する）を実施し、

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<p>アドミッション・ポリシーに合致する意欲的な社会人を積極的に受け入れる。</p> <p>博士後期課程</p> <ul style="list-style-type: none">・ 一般選抜および社会人特別選抜を実施する。・ 修士論文要旨および博士後期課程進学後の研究計画書などの提出書類に加え、外国語試験、口述試験を課す。これによって、「求める学生像」の（１）～（７）の資質・態度を身につけているかどうかを検討し、合否の判定を行う。
--	--